祝詞川ホタル便り

第４号

現在祝詞川があのように源氏ホタルの飛び交うようになったのは、会員一人一人の（最大の武器）川を美しくすると言う気持ちを祝詞川に添えてくれた結果だと最高の喜びを感じております。先月１１月３０日吉田　道男氏と森本　悟氏が今年最後のカワニナに餌を与えてくれました、気温１３℃水温１１℃
※（水温が10℃に下がるとホタルの幼虫も、カワニナも食しなくなります。）
　来年3月彼岸の頃まで休眠状態に入ります。
祝詞川では1～2年前から、かなりカワニナの稚貝が増えています、又水中昆虫も珪藻類も増え、水中の酸素量の測定にも満足の結果が出ています。
この状態をいつまでも維持していきたいものです、ホタルの幼虫も1.2mm位まで成長しています、
※梅雨のうっとおしい時に幽雅な光をみせてくれるのは、そこまで考えた自然界の贈り物と私は思っております。５５０ナノメートルは人間が一番リラックスできる光の波長です。
※源氏ホタルは長野県を境に、西日本、東日本、で光り方が違います、西日本は平均２秒に１回、東日本では４秒に１回のペースで光ります。

フォッサマグナ

日本の主要な地溝帯の一つで地質学的に東北日本と西南日本の境目を中央地溝帯と呼んでいます。源氏ホタルの４秒型、２秒型は交雑するのか、交雑して愛知県あたりで３秒型がでています。東日本は４秒の、のんびり型、西日本は暖かいからなのか光り方に方言があるのか光り方が違うと遺伝子も変化してきているのかはっきりとしたことは、判っていません現在判っていることは

活動性

東日本にいるオスホタルは９時頃には葉の上で休むが、九州のホタルは１２時（午前０時）過ぎてもぶんぶんと飛んでいます。メスの習性も異なっていて関東はタマゴを単独で産むが関西では集団でコケの上に産卵します。これは関西のホタルを関東に連れてきても変わらないのです。
一番人間としてやってはいけないことは、イベント等に源氏ホタルの幼虫を販売したりして独自の地域性が崩れてきています、自然にそうなったのではなく、人為的に影響があり悲しいことです。ホタルの歌に（こっちの水は甘いぞ）云々が知られているが、農薬や洗剤に汚染されていない水でことさら砂糖水のような甘味の付いた水分を好んで集まる訳ではありません
又、幼虫の餌となる、カワニナを放流することで遺伝子汚染等の問題も発生しております。生態系を（ハカイ）しない為の配慮も必要です。
私たちは出来るだけ祝詞川から半径10ｋｍ以内カワニナやホタルの幼虫を持ち出さない、持ち込まないことを約束事にしています。
自然のまま自然のルールだけは守り切っていきたいものです。

（蛍）と正岡子規

人寝ねて　蛍飛ぶなり　蚊帳の中
露となり　蛍となって　消えにけり

会員の皆様来年も今年同様宜しくお願い致します。感謝

野呂　保之　記